

## 入試 (詳細は募集要項にてご確認ください)

### ▶博士前期課程

#### 1. 募集人員

専攻	募集人員	選抜区分		
看護学専攻	10名	一般選抜	社会人特別選抜	学内推薦選抜

#### 2. 選抜方法

選抜区分	出願資格	選抜方法	試験科目
一般選抜	看護師資格又は看護師国家試験受験資格を有する者で、大学を卒業した者、当該年度に卒業見込みの者又は本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた22歳以上の者	英語、小論文及び面接試験の結果並びに成績証明書の内容等を総合判断して行う。	● 英語 (英語外部検定試験*のスコア) ● 小論文 ● 面接
社会人特別選抜	上記一般選抜の出願資格を持ち、医療機関等や官公庁に在職し、入学時3年以上の実務経験がある者	英語、小論文及び面接試験の結果並びに成績証明書、業績調査の内容等を総合判断して行う。	● 英語 (英語外部検定試験*のスコア) ● 小論文 ● 面接
学内推薦選抜	本学を卒業予定の看護学部生で、学業成績及び人物ともに優れた者	面接試験による選抜を行う。	● 面接

\*本学の入学者選抜に係る出願期限から過去3年以内に受験したTOEIC L&R(公開テスト)又はTOEFL(iBT)の成績を証明する書類等を提出すること。

### ▶博士後期課程

#### 1. 募集人員

専攻	募集人員
看護学専攻	2名

#### 2. 選抜方法

出願資格	選抜方法	試験科目
看護師資格を有する者で修士の学位を有する者等	英語及び口述試験等を総合判断して行う。	● 英語 (英語外部検定試験*のスコア) ● 口述試験

\*本学の入学者選抜に係る出願期限から過去3年以内に受験したTOEIC L&R(公開テスト)又はTOEFL(iBT)の成績を証明する書類等を提出すること。

## 入学科・授業料

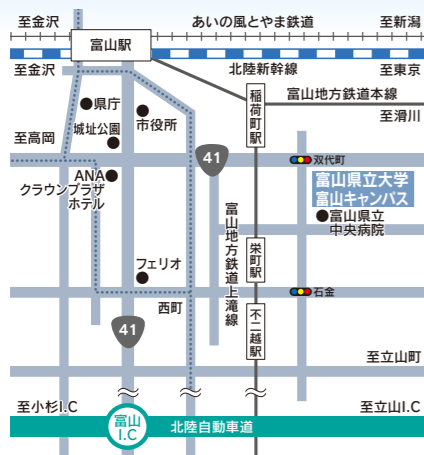
入学科	富山県の住民	188,000円
	富山県以外の住民	282,000円

授業料	前期・後期	267,900円 (年間535,800円)
-----	-------	--------------------------

\*その他テキスト代、実習に伴う経費(交通費等)がかかります。

## 富山県立大学免除制度

区分	対象	納入額	主な基準
入学料免除	大学院生	全額免除: 0円 半額免除: 94,000円(県内出身者) 141,000円(県外出身者)	次のいずれかに該当する者 (ア) 経済的理由により修学に困難があり、かつ、学業成績が優秀であると理事長が認めた者 (イ) 制度ごとに定められた期間内において、学費負担者が死亡し、又は本人若しくは学費負担者が天災その他の災害を受け、経済的理由により修学に困難があると理事長が認めた者
授業料免除	大学院生	全額免除: 0円 半額免除: 133,950円	



JR 富山駅、あいの風とやま鉄道富山駅から、地鉄バス「中央病院行」約20分、または地鉄電車「栄町駅」下車後、徒歩7分。



〒930-0975 富山県富山市西長江2丁目2番78号  
TEL: 076-464-5410 FAX: 076-422-6070  
E-mail: tgakubo@pu-toyama.ac.jp  
URL: https://www.pu-toyama.ac.jp/

発行日 2026年3月

Toyama Prefectural University Graduate School

# 富山県立大学大学院 看護学研究科

# 2026

## 看護を究める



# 研究科長挨拶



看護学研究科長  
松井 弘美

富山県立大学大学院看護学研究科看護学専攻は令和5年4月に修士課程(令和7年4月より博士前期課程に課程変更)を開設、令和7年4月からは新たに博士後期課程を開設しました。

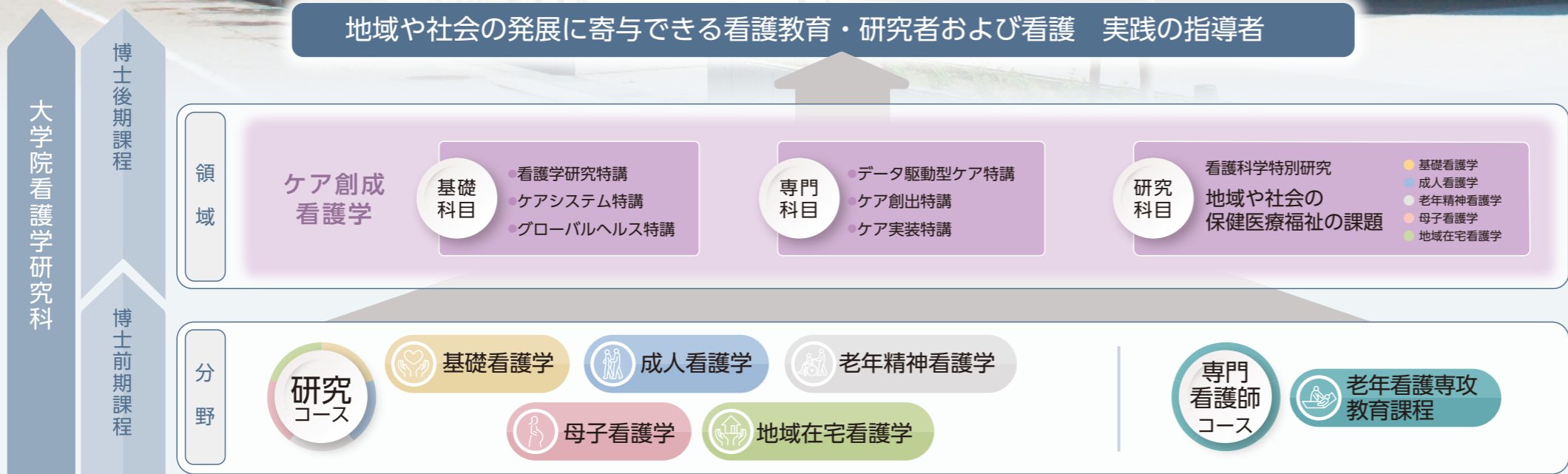
近年、少子高齢化の進展、医療提供の場の多様化、地域包括ケアシステムの構築等により、地域の実情に応じた看護の展開が求められています。富山県の保健医療福祉においては、健康づくりの支援・生活習慣病予防の推進・認知症対策・地域における子育て支援など様々な課題が山積しています。看護職には「医療」と「生活」の視点をもつ専門職として、多元的・多角的視点から地域や社会の保健医療福祉の課題を把握するとともに、課題解決に向け根拠となるデータに基づき必要なケアを創出し、構築していく能力が必要です。

博士前期課程では、論理的・科学的に課題を分析する能力を養い、地域や社会の保健医療福祉の現状と課題を理解し、課題解決の方法を探究します。さらに、博士後期課程においては、課題解決に向けたケアの創出・実践・評価の一連の研究活動を自立的に遂行する能力を養います。このように、大学院では、博士前期課程から博士後期課程へと一貫した教育を行い、地域の看護を指導・牽引できる人材を育成します。

学生の皆さんとともに富山県の保健医療福祉の課題解決と地域に暮らす人々の well-being を目指していきたいと思ひます。



地域や社会の発展に寄与できる看護教育・研究者および看護 実践の指導者



## 施設紹介 図書館棟



図書館棟の1階は自主学習等に使用できる交流スペース、2階はアクティブラーニングスペース、3階は落ち着いた環境で学修や読書ができる閲覧室を備えています。図書館には看護に関する論文・雑誌など全部で約2万冊の本が蔵書されており、国家試験の勉強に励む学生や文献を調べる院生が多く利用しています。

平日 8:30~19:00  
土曜日 9:00~16:00

## データ分析室



院生が自身の研究のために集めたデータを解析し、論文作成等で利用する場所となっています。電子黒板、解析データを取り込むPC、プリンターなど完備しており、この部屋から看護研究に関する新たな発見が生まれるかもしれません。

## 社会人に対する配慮

- (1)教育方法の特例  
夜間・休日授業、長期休暇期間を利用した集中講義など個々の事情に配慮した指導時間の設定を行います。
- (2)長期履修制度  
定職を有する等、修業年限(博士前期課程は2年、博士後期課程は3年)以内での修了が困難な場合、修業年限を2学期(1年)分まで延長することができます。(授業料は修業年限で修了する場合と同額)
- (3)教育訓練給付制度  
本学看護学研究科は教育訓練給付制度の対象講座として厚生労働省の指定を受けています。教育訓練給付は雇用保険に加入している等一定の受給要件を満たす方が、教育訓練を受講・修了した場合に、その費用の一部が教育訓練給付金として支給されるもので、大学院での学び直しを目的とする方には経済的なメリットが大きいです。(支給条件等詳細は厚生労働省ホームページまたはお近くのハローワークへご確認ください。)

# 博士前期課程

広い視野に立って、看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深める教育研究を行い、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成します。

## アドミッションポリシー (入学者受入方針)

本研究科(博士前期課程)の入学者には、看護師資格又は看護師国家試験受験資格を有する次の素養をもった人を求めます。

1. 看護学の基礎知識と総合的な学力を有する人
2. 豊かな人間性と高い探究心を持ち、自主的・意欲的に学び、看護学の向上に寄与したい人
3. 倫理観及び、地域社会や国際社会に貢献する意思と責任感を有する人

## ディプロマポリシー (学位授与方針)

1. 医療及び看護の先端技術を含む高度な専門的知識を持ち、活用する能力を身につけている。
2. 保健、医療、福祉の場で、リーダーシップを発揮し、多職種・多機関と連携・協働し、看護倫理に基づく実践能力を身につけている。
3. 看護学研究を進める上での一般的手法を理解し、課題を科学的に解決する能力を身につけている。
4. 国際的な保健医療に関心を持ち、柔軟な思考と広い視野を身につけている。
5. 地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて主体的に取り組む能力を身につけている。
6. 看護職者として生涯にわたって自己研鑽し続け、プロフェッショナルとしての高い意識と倫理観をもって行動できる力を身につけている。

## 研究コース

看護職者として質の高い医療・看護をより効率的に提供していくために、深化した看護専門知識を持ち、多職種・多機関との連携・協働においてリーダーシップを発揮できる能力、かつ広い視野を持って看護を探究する能力を兼ね備えた、より高度な看護人材を育成します。研究分野は、5分野から選択します。

### 基礎看護学

専門職としての質を高めるために重要となる看護継続教育のプログラムや運用の実践について理解を深めます。その上で、エビデンスに基づく看護実践や、看護倫理を基盤とした対象者の尊厳を守り、かつ自律を支援するための看護実践の課題と研究方法を学修し、自らの研究課題に取り組む基礎的な能力を培います。

### 成人看護学

成人期全般における健康課題に対応する看護の概念や理論を学修する。対象者やその家族に対する看護実践での課題解決に向けた研究を行う基礎的な能力を培う。

### 老年精神看護学

老年精神看護学の基盤となる概念、理論及び重要な実践モデルを最新の知見に基づき学修します。地域で生活する高齢者や精神障がい者及びその家族の健康課題と支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用について理解を深め、演習によって、課題解決に向けた研究に応用できる基礎的な能力を培います。

### 母子看護学

女性のライフサイクル全般及び周産期における母子とその家族の健康課題・子どもの成長発達に応じた子どもとその家族の健康課題を理解し、エビデンスに基づいた支援のあり方を探究します。

### 地域在宅看護学

地域を基盤にして行われる公衆衛生看護、在宅看護の対象者・家族及び人々の健康状態とその背景であるコミュニティをより専門的に理解し、実践の理論的根拠を学修します。課題解決に向けた地域における看護の多様なアプローチについて理解を深め、各専門職とのディスカッションやフィールドワークを通して、理論と実践を融合できる能力を培います。

## 専門看護師(CNS)コース

医療・介護ニーズの高い75歳以上人口の増加が続く富山県の現状を踏まえ、老年看護学分野の専門看護師を育成します。老年看護分野の専門性を発揮しながら、卓越したケアを提供するとともに、総合的な判断力と広い視野を持って、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の6つの役割を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上に努めることができる能力を培います。

### 老年看護専攻教育課程

富山県の看護を担い、看護のスペシャリストでもある専門看護師の輩出を目指します。



# カリキュラム

## カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施方針)

1. 医療や看護の先端技術を含む、より高度な専門的知識を身につけ、活用する能力を育む。
2. 保健、医療、福祉などのあらゆる場において、リーダーシップをもって多職種・多機関と連携・協働し、倫理に基づく看護を実践する能力の一層の向上を図る。
3. 看護学研究を進める上での一般的手法を理解し、より困難な課題に挑戦し解決する能力を培う。
4. 国際的な保健医療に関心を持ち、併せて地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて主体的に取り組む能力を培う。

科目区分	授業科目	配当年次	学期	研究コース 単位数		専門看護師コース 単位数		備考	
				必修	選択	必修	選択		
共通科目	看護学研究特論	1	前	2		2		専門看護師コースは、「看護教育特論」、「看護管理特論」、「コンサルテーション特論」のうち2科目(4単位)を選択必修	
	看護倫理特論	1	前	2		2			
	看護教育特論	1	後		2	(2)	2		
	看護管理特論	1	後		2	(2)	2		
	コンサルテーション特論	1	後		2	(2)	2		
	看護統計特論	1	前		2		2		
	看護ケア科学特論	1	前		2	2			
	国際看護特論	1	後		2		2		
	ケアコミュニケーション特論	1	前		2	2	2		
	富山県の医療保健福祉特論	1	前		2		2		
	臨床薬理学特論	1	後			2			
	フィジカルアセスメント特論	1	後			2			
	病態生理学特論	1	前			2			
小計 (13 科目)				8	12	16	14		
看護専門科目	基礎看護学	基礎看護学特論	1	前	(2)	2		研究コースは、「基礎看護学」、「成人看護学」、「老年精神看護学」、「母子看護学」、「地域在宅看護学」の5つの分野の中から1つを選択し、その中で、特論2単位、演習Ⅰ2単位及び演習Ⅱ2単位の合わせて6単位の修得が必修となる。 選択した分野以外は特論のみ履修でき修了要件の単位として算入できる。	
		基礎看護学特論演習Ⅰ	1	後	(2)	2			
		基礎看護学特論演習Ⅱ	2	前	(2)	2			
	成人看護学	成人看護学特論	1	前	(2)	2			2
		成人看護学特論演習Ⅰ	1	後	(2)	2			
		成人看護学特論演習Ⅱ	2	前	(2)	2			
	老年精神看護学	老年精神看護学特論	1	前	(2)	2			2
		老年精神看護学特論演習Ⅰ	1	後	(2)	2			
		老年精神看護学特論演習Ⅱ	2	前	(2)	2			
	母子看護学	母子看護学特論	1	前	(2)	2			2
		母子看護学特論演習Ⅰ	1	後	(2)	2			
		母子看護学特論演習Ⅱ	2	前	(2)	2			
	地域在宅看護学	地域在宅看護学特論	1	前	(2)	2			2
地域在宅看護学特論演習Ⅰ		1	後	(2)	2				
地域在宅看護学特論演習Ⅱ		2	前	(2)	2				
小計 (15 科目)				6	30	0	10		
高度実践看護科目 (老年看護)	老年看護学原論	1	前			2			
	高齢者アセスメント論	1	前			2			
	老年医学特論	1	前			2			
	高齢者高度看護実践論	1	前			2			
	高齢者ケアシステム論	1	前			2			
	高度実践老年看護学演習Ⅰ	1	後			2			
	高度実践老年看護学演習Ⅱ	1	後			2			
	高度実践老年看護学実習Ⅰ	1	後			1			
	高度実践老年看護学実習Ⅱ	2	前			6			
	高度実践老年看護学実習Ⅲ	2	前			3			
小計 (10 科目)				0	0	24	0		
研究科目	看護学特別研究 (研究コース)	2	通年	10					
	特定課題研究 (専門看護師コース)	2	通年			6			
	小計 (2 科目)				10		6		
合計 (40 科目)				24	42	46	24		

# スケジュール

学年	1 年次			2 年次 (3 年次)			
	4 月	5 月	3 月	5 月	1 月	2 月	3 月
項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式</li> <li>研究課題と履修計画立案</li> <li>主指導教員決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書作成</li> <li>倫理審査申請</li> <li>データ収集/分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>副指導教員決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告会</li> <li>修士論文の作成開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の提出</li> <li>主査・副査の決定</li> <li>論文の予備審査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の公開発表会</li> <li>論文の本審査</li> <li>最終論文提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学位授与 修了</li> <li>修了式</li> </ul>
学生	講義 演習			CNS 実習			
	研究準備	研究活動	研究論文作成	研究論文審査			

## 研究指導教員紹介

※職位は2026年4月時点

### 基礎看護学



教授 岡本 恵里  
研究  
看護技術、  
ユマニチュード、教育方法

看護基礎教育・卒後教育・看護継続教育という看護生涯教育に興味を持ち、学習者の主体性を引き出すような教育プログラムの構築やデジタル教材の開発等、教育方法や教育評価について研究をしています。主なテーマは、看護倫理・フィジカルアセスメントなどの看護技術の教育、看護師の自律的キャリア形成・職業性ストレスや離職、認定インストラクターの資格を活かしたユマニチュード®や認知症看護に関する内容です。



教授 林 静子  
研究  
臨床判断・看護技術教育・  
VR 教材開発

熟練看護師の知識と経験に基づく観察力および臨床判断能力を客観的に示すため、看護師の視線計測とその思考過程に関するインタビューを組み合わせた調査を行っています。この調査結果を基に、VR / MR 技術を活用して、熟練看護師の経験をリアルに再現し、体験できる環境を提供することを目指しています。この技術を活用して、経験の少ない看護学生や新人看護師が、熟練看護師の観察力や臨床判断能力を効果的に学べる教育教材の開発を進めています。

### 成人看護学



教授 片田 裕子  
研究  
慢性疾患看護、  
成人看護学教育

医療機関の協力を得て、患者や看護師のデータから機器開発、プログラム開発、リラクゼーション法効果の研究を行っています。正確で継続的な生活実態の把握から合併症予防に繋げることでより患者への効果的な看護、看護師の効率的な看護実践の検証を行います。このことより今後の超高齢化、医療の多様性選択、医療従事者のセルフエフィカシー向上等、個別性のある、人にやさしい看護実践および発展への寄与を全人的な視点から目指します。



教授 比嘉 肖江  
研究  
エンドオブライフケア、  
グリーフケア

スピリチュアルウェルビーイングとは、「人生の意味と目的を、自己・他者・世界・自分より 大きな力のつながりの中で統合するパターン」のことをいいます (NANDA-I, 2021)。これまで、インドネシア共和国ジャカルタ・イスラーム病院をフィールドに、スピリチュアルウェルビーイングの調査研究を行ってきました。現在は、その調査研究を基に、エンドオブライフケアと医療者のグリーフケアの研究を行っています。

### 地域在宅看護学



教授 越田美穂子  
研究  
公衆衛生看護学・  
事業評価・キャリア支援

地域の専門職や住民、関係機関と協働で研究を進めています。最近では、富山県後期高齢者医療広域連合と共同で、「介護予防と保健事業の一体的実施」事業での自治体内外の連携について研究を行いました。また認知症支援の研究では、当事者や施設支援者への介入効果だけでなく、地域への波及効果等の公衆衛生看護の視点や、本学工学部と連携した工学的視点を導入して分析を行い、地域保健活動での実践効果の可視化を目指しています。



教授 清水 暢子  
研究  
公衆衛生看護学・  
精神保健・介護予防

地域の高齢者が参加している、介護予防教室では、運動や音楽、ダンス、パソコン教室やマージャンなど、多くの予防的介入が実施されていますが、実際にそれが効果を発揮しているのか明確ではありません。そこで、近赤外分光法 (NIRS) を使用した効果測定方法を国内外の高齢者サロンへ行って測定、分析し、生活背景の違う様々な場所で、高齢者への認知機能低下予防活動の評価方法の確立に努めています。

### 老年精神看護学



教授 張 平平  
研究 専門看護師  
健康増進、腰痛改善、  
経穴刺激

本研究では、地域高齢者自身がやりやすく、臨床で鍼灸効果が検証された腎虚腰痛の改善につながる経穴として、「腎経」と「脾経」に属する下肢3箇所(1築賓(ちくひん)、2復溜(ふくりゅう)、3瀨谷(ろうこく))を精選します。老年看護の専門家と東洋医学の専門家による指導と安全 確認のもと、地域高齢者が自ら経穴刺激法を実施します。腰部血流の増加につながる経穴刺激の効果は主観的・客観的な側面から評価します。



教授 木谷 尚美  
研究 専門看護師  
認知症ケア・  
意思決定支援・発達課題

初期認知症高齢者が老年期の発達課題である「人生の統合」を獲得するための「現在・過去・未来を語り、オレンジノートに遺す支援プログラム」を開発しました。認知症初期の段階であれば十分に自分の思いを語る事ができ、この時期の看護は認知症高齢者の生き方の決定に活かすための支援につながると考えています。現在は診療所に勤務する看護職が高齢者の意思決定を支援するための教育プログラムの作成に取り組んでいます。



准教授 伊藤 裕佳  
研究 専門看護師  
長期ケア施設・  
キャリア支援

長期ケア施設で働く看護職の多くが病院での経験を経ていることから、就職後の教育支援や成長過程について明確に示されていない現状があります。また介護職では、その人材育成を看護職が担っていることがあります。そこで、長期ケア施設の看護職の成長や看護職による介護職のキャリア支援の実践に関する調査を進めながら、長期ケア施設における看護職・介護職へのキャリア支援プログラムの開発に取り組んでいます。



准教授 川口 寛介  
研究 専門看護師  
前立腺がん・QOL・  
排尿ケア

高齢男性に多い前立腺がん患者への看護に関する研究に取り組んでいます。特に、手術患者を対象に術後の尿失禁や性功能障害、QOL に関する研究を行っています。がん患者が自信をもちながら暮らすことができるよう、身体面・精神面・社会面から支援を行い、QOL を高める看護を目指しています。また、排尿ケアに関する研究にも取り組んでおり、県内の看護職・介護職を対象に排泄ケアの向上を目指しています。

### 母子看護学



教授 松井 弘美  
研究  
助産基礎教育・  
臨床判断・臨床推論

熟練助産師の臨床判断のプロセスは、推論を用いた論理的思考とヒューリスティックによる直観的思考を連動させ分娩時の状況を解釈し、またその過程で助産師としての分娩の考え方や照らし合わせて判断していました。今後は分娩期の異常として助産師が最も多く経験していた事例における助産師のスク립トを分析し、助産師の臨床推論の内容を具体的に提示し、基礎教育で推論を学ぶ方法の開発につなげたいと考えています。



准教授 小林 絵里子  
研究  
母乳育児支援、  
NICU・新生児看護、  
シミュレーション教育

母乳育児をしたい母親を支援する医療者のケアや知識習得の支援に関する研究、NICU や新生児看護に関する研究を行っています。また、シミュレーション教育は学生にも社会人にも学習効果が大きいといわれていますが、効果的なシミュレーション教育プログラムの開発に取り組んでいます。経験を貴重な学びの機会とするために観察方法を学ぶ一助となり、教育の質向上につながると考えています。



准教授 村田 美代子  
研究  
親子相互作用・育児支援・  
乳児の泣き

出生後の乳児の抱き方は横抱き、縦抱き、生理的屈曲姿勢抱きなどがあり、抱き方における乳児の生理学的影響を明らかにすることで、母親やその家族の育児支援につながると考えています。抱き姿勢画像の機械学習の分析では、生理的屈曲姿勢抱きの識別は、91.0%の正解率が得られ、今後子育て中の親に限らず、出産前から人形を用いた抱き方の自己チェック等ができるアプリ開発など親になる人々への活用ができるのではないかと考えます。



准教授 寺井 孝弘  
研究  
子ども虐待予防、  
育児支援

日本の人口動態や社会情勢が変化中、厳しい環境で過ごす子どもがいます。子ども虐待やいじめ、抑うつなど、子どもの未来において影響を与えかねない問題は減らし、よりよい育児を行っていくためには養育者への支援も欠かせません。研究では、親が育児困難に陥る心理傾向を尺度としてまとめました。この尺度を指標の1つとして、支援が必要な親を早期に把握し、誰一人取り残さない支援システムの構築を考えています。

# 博士後期課程

看護学の専門領域に関する教育・研究を自立して行い、多元的・多角的視点から、地域や社会の保健医療福祉のニーズに対応し、看護学を発展・牽引する高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成します。

## アドミッションポリシー（入学者受入方針）

本研究科(博士後期課程)の入学者には、看護師資格を有する次の素養をもった人を求めます。

1. 看護に関する高度な知識と実践能力を有する人
2. 看護学の教育・研究に深い関心と本質を探究する論理的思考力を持ち、看護研究に関する基礎的能力を有する人
3. 地域や社会の保健医療福祉における多様な課題解決に向けて主体的に取り組む意欲のある人

## ディプロマポリシー（学位授与方針）

1. 多元的・多角的視点から地域や社会の保健医療福祉の課題を把握し、必要なケアを創出するためのデータに基づく科学的方法論を修得している。
2. 地域や社会の保健医療福祉の課題解決のために、必要な看護ケアを実践の場に定着させるための方法論を修得している。
3. 地域や社会に寄与する看護ケア創成のために、科学的思考に基づき自立して研究・教育を遂行する能力を修得している。

# カリキュラム

## カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

1. 広い視野と論理的思考力により看護を科学的に探究する能力を育む。
2. 地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向け、データに基づく科学的方法を活用する能力を培う。
3. 地域や社会に寄与する看護ケア創成のためにステークホルダーと協働しながら、自立して研究を遂行する能力を培う。

科目区分	授業科目	配当年次	学期	単位数		備考
				必修	選択	
基礎科目	看護学研究特講	1	前	2		[ケアシステム特講]、[グローバルヘルス特講]のうち1科目(2単位)を選択必修
	ケアシステム特講	1	前		2	
	グローバルヘルス特講	1	前		2	
	小計（3科目）			2	4	
専門科目	データ駆動型ケア特講	1	前	2		
	ケア創出特講	1	後	2		
	ケア実装特講	1	後	2		
	小計（3科目）			6		
研究科目	看護科学特別研究	1～3	通年	6		
	小計（1科目）			6		
合計（7科目）				14	4	

# スケジュール

学年	1年次			2年次	3年次（4年次）		
	4月	6月	3月	5月	11月	2月	3月
項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式</li> <li>研究課題と履修計画立案</li> <li>主指導教員決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書作成</li> <li>倫理審査申請</li> <li>データ収集/分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>副指導教員決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告会</li> <li>博士論文の作成開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主論文・副論文の提出</li> <li>主査・副査の決定</li> <li>論文の予備審査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の公開発表会</li> <li>論文の本審査</li> <li>最終論文提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学位授与 修了</li> <li>修了式</li> </ul>
学生							

# 研究指導教員紹介

※職位は2026年4月時点

職/教員名	研究指導内容
教授 松井 弘美	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性と家族への看護ケアに関する研究</li> <li>周産期領域における基礎教育・現任教育の教育方法に関する研究</li> <li>子どもの健康課題に対応する看護ケアに関する研究</li> </ul>
教授 岡本 恵里	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護基礎教育・現任教育の教育方法に関する研究</li> <li>看護教育・人材育成に関する課題分析に関する研究</li> <li>看護教育プログラムの開発と効果検証に関する研究</li> </ul>
教授 片田 裕子	<ul style="list-style-type: none"> <li>成人看護学に関する研究</li> <li>成人のメンタルヘルスに関する研究</li> <li>成人看護教育に関する研究</li> </ul>
教授 越田 美穂子	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生看護学に関する研究</li> <li>地域における予防・保健活動の評価に関する研究</li> <li>公衆衛生看護に関わる人材育成に関する研究</li> </ul>
教授 清水 暢子	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の健康増進・認知機能維持に関する研究</li> <li>脳機能・ストレスとメンタルヘルスに関する研究</li> <li>社会的支援・社会参加とウェルビーイングに関する研究</li> </ul>
教授 林 静子	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床判断能力の育成に関する研究</li> <li>看護技術教育に関する研究</li> <li>ICTを活用した教育プログラムの開発に関する研究</li> </ul>

# 研究科生インタビュー

## 本学看護学部 からの進学

01 / interview



山本 奈央さん

博士前期課程 (2025年度入学)  
研究コース

### Q1 なぜ大学院に進学したいと思いましたか?

大学4年生の春まで、進学と就職で悩んでいましたが、教員と話さうちに自分の研究したいと思える事柄が漠然と頭の中で浮かんだことが一番の理由です。大学4年時には文献検討を行います、大学院に進学すれば、教員の指導の下、研究を自身で行うことができます。また大学院に行くことで、自身のキャリアの幅が広がることも進学を決めた要因となりました。

### Q2 研究テーマを教えてください

終末期患児の看取りを行う看護師に焦点を当て、研究に取り組んでいます。子どもの死は家族にとってだけでなく、患児と関わってきた看護師にとっても精神的苦痛が生じる出来事となります。看取りの対象が成人である分野とは異なり、対象が子どもであるからこそ、個人の認知・言語能力や発達段階なども看護に関わってくるため、小児の特性にも着目して研究を進めていかなければならないと考えています。

### Q3 仕事・私生活と学業をどのように両立させていますか?

大半の講義が夜間に行われるため、昼間は課題やバイトに取り組んでいます。昼間、大学に行ける時には研究を進めたり、講義後は研究室に寄って読みたい論文を探したりと大学に滞在している時間はできる限り研究に充てるように意識しています。休日は自分の趣味を楽しんでいます。学部の時よりも研究科では時間の自由度が高く、自分を律しているのが不安ですが、これからメリハリのある生活を意識していきたいと思っています。

### Q4 研究科の魅力や進学してよかったことは?

同学年の中には看護師・助産師・保健師の方が在籍しており、講義の中でディスカッションを行う機会が多く設けられているため、豊富な経験に基づいた事例や考え方を教えていただけ、新たな視点や知識を得られることです。また学部の時よりも発表する機会が多く、自身の考えを制限時間内に相手に伝わりやすく表現する能力を鍛えることもできます。

### Q5 修了後の進路展望について教えてください。

看護師として臨床の場で働きたいと考えています。大学院では自身の研究領域以外の学びも深まります。そのため、研究しているテーマは小児看護や終末期看護ではありますが、領域を問わず様々な病棟で活躍できる看護師を目指したいと思っています。また看護師として働く中で、研究したい事柄が生じれば、再び大学院の道に進みたいと考えています。

## 社会人から の進学

02 / interview



川開 夏生さん

博士前期課程 (2025年度入学)  
研究コース

### Q1 なぜ大学院に進学したいと思いましたか?

臨床現場において、自身の産後の経験から小児科に助産師が関わる意義を強く感じ、小児科へ転職しました。実践を重ねる中で、小児科には母子支援を継続的に進める可能性があると考えようになりました。今後の母子支援の在り方をより深く学び、実践につなげていくために、次のステップとして大学院進学を志しました。

### Q2 研究テーマを教えてください

産後1か月健診後の移行期に生じやすい支援の空白に着目し、小児科が育児支援の場としてもっと活かせるのではないかと考えています。まずは、母親がこの時期をどのように感じているのかを丁寧に明らかにし、その背景を理解することを大切にしています。助産師が小児科に関わることで生まれる支援の可能性を明らかにし、地域で継続的に寄り添える関わりを検討しています。

### Q3 仕事・私生活と学業をどのように両立させていますか?

地域のクリニックで勤務しながら、勤務調整を行い夜間開講の授業に通っていました。私生活では小学生と保育園児を育てる母でもあり、家族の支えがあってこそ続けられたと思います。授業以外の課題時間の確保は想像以上に難しく、家族が起きる前の朝の時間や隙間時間を活用し、少しずつ学習を積み重ねてきました。その結果、限られた時間でも継続して学ぶ姿勢が身に付いたと感じています。

### Q4 研究科の魅力や進学してよかったことは?

授業はディスカッションが多く、年代や立場が異なる仲間との対話は視野を広げてくれる大きな刺激でした。また、自分の経験や考えを言語化して伝える力も鍛えられたと感じています。悩みを否定されることなく深く向き合える時間は、地道ではありますがとても貴重であり、経験・知識豊富な先生方が丁寧に受け止め、共に考えを深めてくださることに支えられていると感じています。

### Q5 修了後の進路展望について教えてください。

修了後は、研究科での学びを現場で生かしながら、システムとして取り入れていくことができればよいと考えています。現時点では明確な形としては描けていませんが、自身の研究テーマにおける課題について、何かしらの形で社会や現場に還元できる可能性を模索していきたいという思いがあります。研究科で得た学びは、今後の実践や人生においても大きな意味を持つものだと感じています。

# 修了生インタビュー

## 本学看護学部 からの進学

01 / interview



室 日菜子さん

修士課程 研究コース  
(2025年3月修了)

### ▶ 大学院で得た学びと今後について

大学院では、授業の中での多くのプレゼンテーションや文献クリティーク、フィールドワーク、学会発表、看護研究などを経験しました。私たち1期生13名のうち学部卒は2名でしたが、社会人の院生と一緒に授業では貴重な臨床経験を聴くことができ、知見が広がりました。

私の研究テーマは「喪失と悲嘆」で、「患者との死別を経験した看護師の成長」について、修士論文をまとめました。研究のプロセスと指導教授とのディスカッションを通して、分析方法や論理的思考を学びました。特に、調査で得られた結果を分析し、考察する過程はとてつもない時間がかかりましたが、熟考を重ねることでより多角的な視点から捉えられたと思います。

フィールドワークでは、遺族ケアのサポート（グリーンケアの会）を見学しました。大切な人を亡くした方の語りを直接聴かせていただき、死別体験は故人との歴史や関係性、遺族の状況や生活背景などにより、一人ひとり異なることを実感しました。その人を知り、ありのままを受け止める大切さを再認識したとともに、個性とは何かを考え直す機会になりました。

大学院修了後は、急性期病院の看護師として勤務します。大学院での学びを患者と家族へのケアに活かし、悩みや葛藤に直面した場合は、一旦立ち止まり、振り返る時間を持ちたいと思います。そして、看護研究で得た結果をふまえて、周囲のスタッフと自分自身のことも大切に、思いやりを持ち続けたいと思います。

## 社会人から の進学

02 / interview



山野井 真希さん

博士前期課程 専門看護師コース  
(2026年3月修了)

### ▶ 大学院で得た学びと今後について

働きながら大学院で学ぶというのは、想像をはるかに超えて大変なことの連続でした。入学当初は「恐ろしいところに来てしまった…」と思ったものです。

1年目はほぼ毎日、日中は仕事、夜は大学という生活でした。課題に追われて倒れそうでしたが、そのおかげで言葉にして伝える力は磨かれたと思います。

2年目は県内の老年看護 CNS の先輩方のもとで病院実習させていただき、分析する力、独りよがりにならずにメンバーを巻き込み協働する力の大切さ、難しさを改めて実感しました。実習中は担当患者さんについて「その人に何が必要なのか」「自分に何ができるのか」ということをじっくり考えることができ、大変貴重な時間だったと思っています。

長期履修制度を利用した3年目は「足と健康」をテーマにした研究に取り組み、地域の介護予防教室へ出かけて行って調査を行いました。地域の高齢者のパワフルさに圧倒されつつ、「高齢になっても元気に楽しく暮らしていくことに貢献したい」という気持ちを再確認しました。

振り返ると、大変刺激的な3年間でした。「もうダメかも…」と思うことも何度もありましたが、そのたびに先生方や仲間にも助けられました。大学院を修了しても CNS の認定試験はこれからなのでまだ道は半ばですが、大学院での経験が、立ち止まりそうになる背中をポンと押してくれるような気がします。老いることは苦しいことかもしれませんが、そんな厳しい現実の中にも元気が出ること、楽しいことを忘れない。そんな看護を実践できる CNS になれるよう今後も挑戦を続けます。

